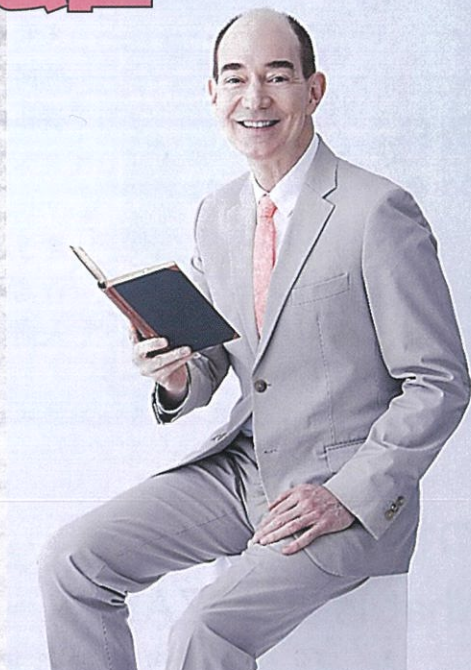


谷崎記念館だより



第33回残月祭
ロバート キャンベル講演会

「青い花」の長い散歩

—大正期の谷崎文学と「都市」について—

文豪谷崎を偲び、誕生日を祝う「残月祭」。今年度も7月24日に、芦屋ルナホールにて開催、253名の観衆が集った。この催しを始められたご遺族の渡辺千萬子さんが4月にご逝去され、追悼の意を込めて行われた。

今回は日本文学研究者のロバート キャンベルさんをごゲストにお迎えし、谷崎の大正期の作品を読み解いて頂いた。「痴人の愛」の先駆けと捉えた短編小説「青い花」(大正11年)を取り上げて、作品に描かれた主人公岡田の、若い恋人阿具里への妄想を膨らませて衰弱していく精神状態や、痩せ衰えていく身体の様相を、二人が歩く銀座の街の描写と合わせて分析された。また、写真スライドで、明治から昭和初期における銀座の街の変容を解説された。

さらに、谷崎の妻松子夫人との交流や、『春琴抄』の漆塗本をめぐる逸話なども紹介され、会場の観客は熱心に聴き入っていた。



ロバート キャンベル氏